



平成20年度生きがい情報士研究集会報告

生きがい情報士研究集会 健康生きがいづくり向上研修会

日時：平成21年3月7日(土) 13:00～16:00
会場：ベルエポック美容専門学校

経歴

昭和37年3月 日本社会事業大学卒業
昭和37年4月 地方公務員 社会福祉主事
昭和46年9月 ねむの木学園勤務
昭和47年4月 社会福祉法人
慈愛園乳児ホーム勤務
平成11年3月 熊本県副知事
平成12年4月 熊本県知事に就任
平成16年4月 熊本県知事に再選
平成20年4月 熊本県知事を退任
平成21年4月 長崎国際大学学長

テーマ

「福祉の連携地域のささえ愛行政」

—これからの福祉における情報提供の必要性について考える—

講演 前熊本県知事
潮谷 義子 先生

前熊本県知事
熊本県立大学客員教授
潮谷 義子 先生



「生きがい」を考えるということ

私たちは一人一人みんな違います。

国籍で見ても、性別で見ても、年齢でみても。

多様な人々がこの社会の中にいて、果たしてその違いを、社会は受け入れているのでしょうか。

すべての人が暮らしやすい社会を作っているのでしょうか。

ダイバシティ＝多様性の今日の社会の中で、すべての人が社会に参画できるという為に、私たち一人ひとりは、どのような役割を果たしていくかなければならないのか、これが「生きがい」を考えるということだと、私は思います。

健康ということは、カラダの健康だけではなく心とカラダの両方があってのこと。

健康生きがいづくり向上ということを考えた時に、私たちはまず、私たちを取り巻いている社会が、本当に多様な人々を受け入れている社会となっているのかを考えなければなりません。

生きがい情報士の皆さんには、多様なサービスを、その求める方々にお届けする役割があります。

社会の資源になにがあるのだろう、国の法律の中に入々の求めるニーズがあるのだろう、その観点が大事になってきます。すべての人に配慮されているという今日の社会が、私たちの幸せ・ニーズに応えていくという大きなポイントだと思います。

ニーズを発見するということ

すべての人が暮らしやすい社会を、この多様な人と作りだすには、「コミュニケーション」が大事だと思います。

しかし、今日では人々がコミュニケーションを取ることも難しくなってきています。

人々が何を求めているのか、そのことに耳を傾ける時間も乏しく、

そして、人と触れ合うことに臆病になってしまっている人たちがたくさんいます。

多様性といわれる今日の中においてでも、個人を埋没させていく多様性ではなく、

一人一人に名前があるように、「個」がある事を、ぜひ認識してほしいと思っています。

多くの人たちのニーズをひとくくりにしてしまわないで、皆さんのコミュニケーションの中から、何が求められているかを考え、その役割を担っていってほしいと思います。